

Accompaniment

アカンパニメント

～伴走者～

第17号

令和5年度留萌管内オンライン研修

Accompaniment plusを実施しました

留萌教育局では、道徳科の授業づくりや道徳教育の在り方について理解を深め、授業の改善・充実に向けて実践的な指導力を高めることを目的に、東京学芸大学教職大学院 浅部 航太 准教授を講師に迎え、2月16日（金）にオンライン研修を行いました。

研修では、「道徳教育の一層の充実に向けて」と題し、「ウェルビーイングと道徳教育」、「道徳の授業づくり」に係る講義や模擬授業体験が行われ、14名が参加しました。

講義では、第4期教育振興基本計画の2つのコンセプトである「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」から、ウェルビーイングと道徳教育について、ウェルビーイングが深化する流れや、ウェルビーイングに係る道徳科、他教科や生徒指導それぞれの目的を説明していただきました。

模擬授業では、参加者から寄せられた「正解を言わせる授業になってしまう」、「教師主導となってしまい、子どもが自発的に考える授業にならない」など、道徳科の授業に係る悩みをもとに、『私たちの道徳』に掲載されている『ブランコ乗りとピエロ』をとおして、それらを解決するための具体的な手立てを示していただきました。

参加者からは「改めて、道徳の授業とは何か、子どもが楽しく学ぶためにどうすればいいだろうと、考えるきっかけになった。」、「自分自身の授業づくりには、まだまだ改善の余地があると感じた。特に、内容項目を理解する視点が不足していることに気付いたため、本研修で学んだ発問の流れを意識しながら授業づくりをしていきたい。」などの感想があり、道徳教育の重要性について深く理解したり、理論と実践を結び付けたりする機会となりました。

道徳教育の充実については、令和6年（2024年）3月1日付け教義第1355号にて通知している道徳科の特質を踏まえた授業づくりに向けて基本的な事項をまとめた「『特別の教科 道徳』授業づくりハンドブック」や、北海道版道徳教育アーカイブ掲載の授業動画や成果普及資料等もぜひ御活用ください。

1 ウェルビーイングと道徳教育

| 道徳科 | 他教科等・生徒指導 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> よりよい生き方についての考え（価値観）を確立する。 ウェルビーイングに向けた羅針盤をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもが、ウェルビーイングの土台となる要素を高める。 |

1 ウェルビーイングと道徳教育

道徳に正解はない？

- 「道徳の答えは一つではない」→〇
- 「道徳の授業に正解はない」→？

一人一人が、**自分なりの正解**を見つける時間！

納得解：**自分が納得でき周囲の納得も得られる解**
(一人一人がもつもの)

(研修会スライド資料)



(北海道版道徳教育アーカイブ)



(『特別の教科 道徳』授業づくりハンドブック)

「特別の教科 道徳」授業づくりハンドブック

2 授業づくりのポイント

3 道徳科における学習評価

授業の改善

道徳科に関する評価の基本的な考え方

学習評価の観点

学習評価の工夫例

（『特別の教科 道徳』授業づくりハンドブック）

新しいかたちの学びの授業力向上推進事業について

今年度から始まった本事業では、1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善及び1人1台端末を活用した家庭学習の充実を目指し、推進教員の東光小学校野々村教諭、緑丘小学校村上教諭が東光小学校、緑丘小学校、潮静小学校、増毛小学校を巡回し、様々な場面でICTを活用し、個々の特性に合った多様な方法で学習を進めたり、多様な人たちと協働しながら学習を行ったりすることができるよう、チームティーチングによる授業改善を推進しました。

1年間の取組の中で、各校におけるICTの活用が進み、教員のICT活用はもちろん、子どもたちも工夫してICTを活用するようになったとの成果が報告されています。

一部ですが、取組の例を紹介します。

- ・絵日記を読み合い感想をメッセージにして送る活動
- ・1人1台端末を活用して文章の構成を考えたり、文章を作成したりする活動及び作成した文章の交流
- ・作成した文章や作品をもとにした他校との遠隔交流
- ・音読の練習や説明の確認等、発表・表現する場面における活用
- ・学習の様子や自己評価への活用
- ・学習アプリ等を活用した家庭学習の充実

また、本事業の推進により、「推進教員との振り返りの時間や助言が自校の授業改善につながった。」「本事業を通してICTを積極的に取り入れたことにより、授業づくりや研修への意識が向上した。」「低学年においてもICTを活用した協働的な学びが見られるようになった。」「ICT活用に係る他校の好事例も参考になったことから、今後、授業はもとより委員会活動や行事等、様々な場での活用を考えていきたい。」等、成果があげられています。

2月8日付け事務連絡でお知らせしていますが、今年度、留萌市推進グループが作成した映像版実践資料については次のQRコードから視聴可能です。

映像版実践資料では、オンライン上でディベートを行い、録画した様子を確認することで、学習の振り返りが充実する姿や、1人1台端末を活用する際のポイントが10分の動画にまとめられています。

ぜひ各校の授業実践の参考にしてください。

本事業の趣旨

個別最適な学び ICTを活用 協働的な学び

ICTの効果的な活用を通じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」への授業改善

これまで積み重ねた授業実践をベースに、一人一人の児童を主語とした授業への転換を目指します。

(推進教員作成資料「新しいかたちの学び通信」から)

本事業の重点

〇1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

⇒児童同士や教師とのやり取りをする場面や児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での活用

〇1人1台端末を活用した家庭学習の充実

⇒授業や授業以外におけるMEXCBT等の学習アプリの効果的な活用

ロイロノートに整理（意見文の構成）された情報をもとに、Wordの原稿用紙テキストに文章を打ち込むなど、端末の画面操作や共有にも十分慣れていきます。



自分を発表・表現する場面でのICTの活用率も高まっています。



高学年では、Teams、ロイロノート、Googleなど目的に合わせてクラウドを同時に使用することができます。



(推進教員作成資料「新しいかたちの学び通信」から)



留萌市推進グループ作成

「AIとの暮らし」

[映像の内容]

- ・情報を収集して整理する場面での端末の活用
- ・考え表現し、共有する場面での端末の活用
- ・学習内容を蓄積し、考えを深める場面での端末の活用
- ・「話すこと・聞くこと」領域における端末の活用のポイント

(URL)<https://youtu.be/tVJnBchaZNo>

